

コロナ禍における 地域共生と教会

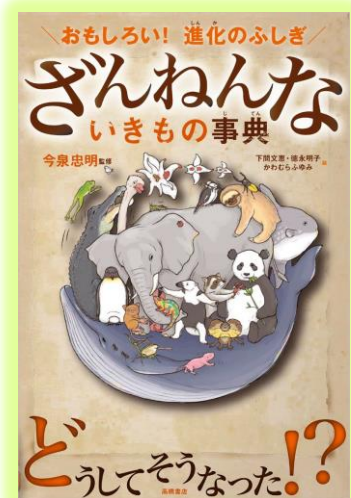
福祉の視点からの新しい教会様式と実践

東京基督教大学 第8回「キリスト教と福祉」研究会

2021.2.25 松谷信司（「キリスト新聞」編集長）

「ざんねんな」教会にならないために…

- ▶ 既成概念をいったん置いてみる
- ▶ OSからアップデートする
- ▶ 言い訳探しをしない
- ▶ 全員が当事者として主体的に



メディアから見る キリスト教界の今

➤➤ コロナ禍以前からの課題

コロナ禍以前から受け継がれる課題

- ▶ 牧師不足、無牧教会の増加
- ▶ 信徒の高齢化、教会の硬直化
- ▶ 教勢の低迷に伴う「保守化」
- ▶ 教会観、牧師像の世代間ギャップ
- ▶ 自教会、自教派への固執 内向き志向の悪循環



不健全な代謝異常

教会観、牧師像のバージョンアップは？

「昭和」

反復・暗記・精神論

忍耐してなんぼ

一方的な講義

自己犠牲の美德

「令和」

効率重視・合理性

楽しみながら学ぶ

双方向・参加型

ワークライフバランス

そもそも認知されていない問題

- ▶ 教会はどこにある？ 牧師はどこにいる？
- ▶ クリスチャンが必ず聞かれる質問あるある
「信者じゃなくても入っていいんですか？」
- ▶ 「どなたでもお越しく下さい」とは言いながら…

「泣いた赤おに」状態



一方そのころ「業界」は…

- ▶ 読者（顧客）の高齢化、組織の硬直化
- ▶ 教派神学校の定員割れ、閉鎖
- ▶ 「恵みシャレー」閉鎖 → 売却
- ▶ CLC（クリスチャン文書伝道団）解散 書店の閉店
- ▶ 株式会社サンガ、柘出版社の破産

もはや個別の問題ではない

コロナ禍で顕在化した社会的課題

- ▶ 「ステイホーム」できる人／できない人の格差
- ▶ 失業、貧困、孤立、虐待という負の連鎖
- ▶ 医学的・科学的エビデンスへの姿勢
- ▶ 蔓延する誹謗中傷と「自粛警察」
- ▶ 「自助」ありきの政策
- ▶ リーダーシップの欠如



他宗教の動き

- ▶ 葬儀、祭りの変容
- ▶ オンライン法要
- ▶ 賽銭のキャッシュレス化
- ▶ バーチャル参拝
- ▶ YouTubeへの参入

中止の「納涼祭り」を「あつ森」で忠実に再現

神田神社



YOUTUBE.COM
神田明神 X あつ森 納涼祭り
秋葉原の氏神様、神田明神が人気ゲーム「あつまれどう...

【東密】千代田区の神田神社（清水様彦宮司）では、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となった「納涼祭り」の様子を人気テレビゲーム「あつまれどうぶつ王国」で再現し、九月三十日までに公開した。

「納涼祭り」は例年八月月中旬に開催され、四方の人以上が訪れる夏の風物詩。境内に櫓を組んで催される「盆踊り」をはじめ、「あつまれどうぶつ王国」でも多くの人が祭りの雰囲気を楽しんでいる。

原の特徴を活かしてのアニメ関連の催しなどが多数おこなわれる。今年も新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったものの「あつまれどうぶつ王国」でも多くの人が祭りの雰囲気を楽しんでいる。

同神社資料館所蔵の錦絵のデザインなど、ゲーム内で使用できる素材を用意。同神社ウェブサイト内の特設ページでも一連の企画を紹介している。

（藤原明通信員）

「もりたい」と方法を検討。四月・五月の緊急事態宣言下で幅広い世代で人気を博したゲームの中にその様子を再現することを企画した。

このゲームは、無人島を自由に開拓して独自の島を作るもの。同神社では今回、ゲームのなかに例年の「納涼祭り」を「あつまれどうぶつ王国」として忠実に再現。八月二十八日から公開が始められ、ゲームを楽しんでいる人は、島内を楽しんだ。また、島内の様子は動画共有サイト「YouTube」でも紹介している。

このほか半纏や浴衣

コロナ渦での教会と 業界の課題

➤➤ 何が変わって何が変わっていないのか

コロナ禍で明らかにされたこと

- ▶ 必要に迫られれば教会も変わることができる
- ▶ 「なくても回る」無駄の多さ → 合理化のヒント
- ▶ 「教会難民」によるオンライン需要の存在
- ▶ コロナ禍以前からの「礼拝弱者」の存在
- ▶ 提供するコンテンツの質が一目瞭然
- ▶ 淘汰、選別される覚悟の必要性

露呈する教会の制度疲労

- ▶ 特定の時間、空間に縛られてきた閉鎖性
- ▶ 前例踏襲の無責任体制、変われない保守体質
- ▶ 地域社会にとって必要な存在？
- ▶ 牧師と信徒の共依存
- ▶ 指導者中心の一方的な講義型説教と
信徒による参与のない礼拝

天谷 忠央（中央学術研究所所長） 3/26付「仏教タイムス」

「感染症が起きても、**政治の側も医療の側も、また一般の国民も、宗教の必要性を感じてはいない**。しかしそんな議論はともかく、反省を込めて、宗教者は行動に出る時ではないか。

新型コロナウイルスによって突き付けられているのは、人と社会における信頼の問題である。ほんらい社会は、信頼と共同で成り立つはずなのに、このままでは不信感が増大し、たがいに支え合い助け合うという、当たり前倫理が失われるだろう。いや、すでに人と社会は、善き倫理を喪失していたのかも知れない。今が大切な時である。分岐点である」

濱野 道雄（西南学院大学神学部教授）



「『教会とは何か』というアイデンティティさえ確認されていれば、この時期の礼拝には豊かささえも生まれる。合同のネットミサがカトリックなどでは行われているが、プロテスタントでも合同礼拝や、交換講壇など、今でこそできることもあり、実際に行っている教会もある。……郵送やZoomを活用し、その中身を『本当に大切なことに絞る』とき、その内容が洗練されていく経験をした教会も少なくないだろう」

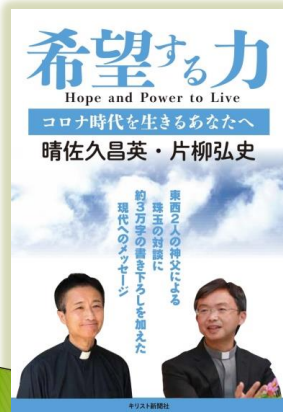
危機の中の微かな希望

➤➤ 時代の要請に応えるための模索

築地本願寺 伝統か挑戦か



『希望する力 コロナ時代を生きるあなたへ』 教会の現状と展望めぐり神父が対談

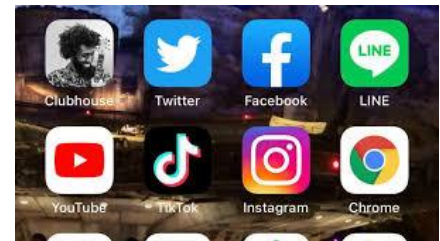


オンラインを駆使した新しい模索

- ▶ SNSの積極的な活用
- ▶ 動画コンテンツの充実
- ▶ 双方向型のコミュニケーション
- ▶ 意識的に既存の枠組みから「外」へ出る
- ▶ 学校、家庭、社会で居場所を失う人々のため
孤独に寄り添う

LINE、TikTok、clubhouseの活用？

- ▶ 新しいツールをどう宣教に活用するか
- ▶ 教会の「壁」をどう乗り越えるか
- ▶ 異業種交流・他流試合ができるか



多様な動画配信の勃興



求められる「新しい教会様式」 とは？

➤➤ ポストコロナの宣教を考える

ネットで話題

「イエス様ならトイレットペーパーをお分けになるでしょう」
豪東部 Gosford 聖公会の看板



東大寺での超宗教による終息祈願が「アベンジャーズ」「Gメン75感ある」と話題

「第三者」 の存在意義



「生き残り」をかけて問われる真価

- ▶ コロナ後も「元には戻らない」ことを前提に、既存の枠組みや執着を捨て、多様な連帯の形を模索し、対外的に存在意義を示す好機。
- ▶ 本質は何かを見定め、最低限必要なことに絞って可能な方法について知恵を出し合い、牧師も信徒も自立し、持続可能な仕組みづくりを！
- ▶ 意識的な世代交代とダイバーシティの確保。

ヘンドリック・クレマーの手紙

『日本のキリスト教に未来はあるか』



「日本の教会、諸君の教会は、かつて西洋の宣教師から与えられた概念、型、構造に、**あまりにもキチンと**はまりこみ、それに固執しすぎている！ しかもこのような過去のイメージが、諸君にとっては、聖なる、犯すべからざるもの、変更など思いもよらぬものと考えられている。…だから、日本の教会は他に対して宣教しようとしながら、一般からは、真に自己中心的、閉鎖的生き方をしていると見られているのである。…諸君の間には、あの原始教会に見られるような、**聖書的な自由闊達さ**が見られない」



ご清聴ありがとうございました。 >>



@macchan1109